

令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実	評価担当者
基本施策	(5) 学びによる生きがいの創出	教育部長 亀山 隆
目指す姿	市民が豊かに学び、それぞれの学びの成果によって、地域社会で活躍しています。	
関連する分野別計画	亀山市生涯学習計画	

■ SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	4 質の高い教育をみんなに 	17 パートナリーシップで目標を達成しよう 
SDGs推進の考察	「社会的包摂」の視点から、誰もが均質に学ぶ環境創出に向けての取り組みであると認識している。また、個々の学びはその個人に帰属するものではなく、その成果が社会の中で生かされ、地域連帯を深めていくものと認識しており、SDGs推進に寄与するものと考えられる。	

■関連する主な事業

(単位:千円)

[illegible]

太字：主要事業

■成果指標

指標			現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	デジタル技術を活用した講座の開催数	回	8	R2	1	6			20
2	図書館入館者数	人	61,500	R2	90,583	276,338			230,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	生涯学習講座が充実している	重要度	0.81	0.85		
		満足度	0.15	0.23		
2	公民館などの施設や行事内容が充実している	重要度	0.68	0.75		
		満足度	0.04	0.07		
3	図書館が充実している	重要度	0.91	1.07		
		満足度	▲ 0.14	0.90		
4		重要度				
		満足度				

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域課題の解決に生かせる学びの展開	「かめやま人キャンパス」を開催するとともに、「かめやま人」認定者の支援を行い、人材育成を展開している。今後も、更なる学びの循環による人材育成を展開していく。
② 新図書館を核とした読書活動・市民活動の推進	ボランティアの協力等により、市民の読書活動の推進を図った。図書館が市民交流の場となる利用しやすい環境を創出し、きめ細やかな図書館サービスの提供を進める。
③ 誰もが学べる環境づくり	学びの情報を一元化した学びのガイドブックを発行するとともに、中央公民館講座等を開催し、市民に学びの機会を提供した。今後も、学びの機会の充実を図る。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

地域課題の解決に生かせる学びの展開については、「かめやま人キャンパス」の第2期への展開を図ることができた。この中で、「まちのインフルエンサー養成講座」「まちのせんせい養成講座」は地域情報の発信と地域資源の掘り起こしをテーマとしたものであり、地域に直結する学びとして地域活動への展開が期待できる。また、すでに認定された「かめやま人」の交流とフォローアップのためのミーティングなどを通じて、行政委員や中央公民館講座講師への登用も行われている。このように、「かめやま人」が実際に地域づくりに寄与する学びが展開できたことは大きな成果であったと考えている。成果指標としているデジタル技術を活用した講座は、誰もが等しく学べる「社会的包摂」の視点での学びの環境づくりについて、引き続き模索を重ねていく必要がある。コロナ禍で激減した学びの参加者総数については順調に復活しているが、その流れの中で学びの成果により地域の課題解決に参画し、地域における自己有用感によって生きがいを見出すことをより強く打ち出していくための実践的検証が必要である。図書館については、令和5年度で276,000名を超える入館を得て、学びと交流の中核拠点であるとともに誰もが利用できる市民の居場所空間としての定着ができている。図書館独自に構築した管理運営評価では、より良質のサービス提供と市民の居場所として評価できる一方で、地域情報発信や子どもの読書活動推進に改善の余地がある。また、中・高校生の利用は旧館と比べて大幅に増加しているが、学習や同世代交流の場としての利用が多いとみられ、読書活動や地域への参画促進の視点からの展開が必要である。

A

順調に進んだ

今後の展開方針

「学びのカタチ」が確立されている中で、自己完結型とならないように学びの目的を明確にしたうえで、かめやま健康都市大学との連携や中央公民館での学びの構成を精査していく。この中で、これまでの学びの提供数に固執せずに公が提供する学びとは何かに立ち返って次年度の学びの企画を進めていく。また、図書館については若年層に的を絞った市民読書活動推進とともに、子どもの図書館での学びと体験活動が読書活動に結びついていくようにその具体的な方策についてプロジェクトチームでの共有を図りながら進めていく。さらに図書館利用状況の実態に即した管理運営の在り方を構築するために、地域課題に対応した蔵書計画や図書館サービス計画の改定、委託業務などの更新を見据えて曜日や時間ごとの利用動向や休館日における休憩コーナーなど具体のデータ収集を行います。